

成田市 下総みどり学園視察レポートまとめ
「どのような学校を作りたいか、学校を作るうえで大切にしたいこと」

○ソフト面

教育関係

- ・ 4-3-2 制を取っている（国田小中学校は 4-4-1 制）似たようなものか
- ・ 今後の教育課程は？に対し「手広くやってもパンクするかも…」
- ・ 見学者への子どもたちの挨拶が元気でさわやか（国田も同様）
- ・ 三小・一中の玉里地区としてのよさを共有し、4-3-2 制 9 年間の連続した学びを通して、「たくましさ」「まごころ」「理想（りそう）」（一例ですが）をもち、豊かな人間性と社会性を発揮できる「玉里っ子」育てる。
- ・ やはり学校でもっとも優先されるべきは学習，学業であると思うので，教科担任制をなるべく多く取り入れて，学力の向上が図れるようなカリキュラムを組んでほしい。また，どの先進校でも縦割活動の拡充による子ども達の特に高学年の生徒の精神面における成長作用は非常に大きいとの説明であったので，そこを重点施策に掲げてほしい。
- ・ 小中一貫教育は推進したい。さらに義務教育学校を目指したい。
- ・ 霞ヶ浦をキーワードに「環境教育」「エコロジー教育」に力を入れてはどうか。
 具体的には
 - 水生動植物の飼育，観察・霞ヶ浦浄化の研究活動・廃油の回収利用
 （廃油バスの運行・石鹸作り・etc）
 - たくましさや元気につながる教育手段としても霞ヶ浦での遠泳やカヌー体験などの実施
- ・ <新設校の建設に当たって>
 「未来の教育の展望は，この玉里地区に新しく建設される学校にある。」これは，地域の人々や教職員，保護者の思いや願いを受けている。学校は，地域によって成り立ち，地域の子どものためにある。そこで学ぶ子どもたちが「真剣な瞳と輝く笑顔」をもって学校生活を送り，成長していくことにより，やがては地域や社会のために貢献していく。そんな「主体性，創造性，感性」のある子どもに育てていきたい。また，地域のよさ（教育力）を生かした創意工夫ある取組により，「地域の根ざした魅力あふれる義務教育学校」をつくっていきたい。
- ・ <学校経営（運営）の方針>
 - 子どもの個性や持ち味を生かした「楽しく学べる学校」づくり
 - 地域に根ざし，地域との連携を深めた「開かれた学校」づくり
 - 学校や地域の組織体制を確立した「安全・安心な学校」づくり
- ・ 目指す子ども像で 3 つの目標を掲げ，第一番目にしなやかな心を持った子というフレーズがあるが，こういう場面こういうところでは普段，一般的には使う言葉ではないと思われませんか？そして小学生では理解しがたい言葉であると思われませんか，あえて使用した意図と真意は？そして発案者は？
- ・ マージャンのあがり手と同じく 9 学年を使つての無数にある縦割り組み合わせを使つての各行事等振り分け方や指導など先生方への負担が大変だと思われませんか。結果によっては良いことでも先生の失敗と早めます。若い先生方は順応できると思われませんか，15 年，20 年と今迄の教育現場で渡り歩いたベテラン先生にはしんどいと思われませんか。しかし，良い点が多いであろう今後の教育方法，子ども達や保護者の為に最初にルールをしかれる先生方には大変苦勞をかけると思われませんか，地域の人々の手助けも借りながらスクラムを組んで未来の明るい光に向かってルールを作ってほしい。

- ・玉里地区の小中一貫校ではどのような教育に力を入れていくのか。
 - (例) 英語：スピーチコンテストの実施・充実，英語検定やTOEICの受検
 - 算数・数学：そろばん教育の導入
 - 理科：環境教育の導入
 - 芸術：合唱，合奏などの充実
 - 福祉：介護等に関する教育の導入
 - アクティブラーニングの導入⇒2021年の大学入試改革に関連して何かできることはないか。
- ・子ども達が地域に愛着や誇りを持てる教育の導入
 - (例) 地域の特徴や歴史，今後について学ぶ教科の創設（学校と地域が協力）

異学年交流

- ・1～9年生の縦割りでの掃除当番制上下の繋がり，責任感が見える
1～9年生の縦割りでの遠足；リーダー意識の高揚
- ・異学年教育；4・7年生の調理実習，6・8年生の英語writing教室，
低学年への読み聞かせ（国田もやっているとの事）
- ・一貫校での強みを生かし，異学年の相互作用が素晴らしい効果を生んでいること
- ・縦割り班活動，異学年交流等で，高学年（中学生）の優しさ等が増加し，良い人間関係づくりが出来ること感動した。是非，今の学校や新しい学校でも取り入れていきたい。
- ・小中一貫教育のメリットを最大限に生かせる学校を希望します。
 - 他学年との交流時間の確保（授業，地域の方との交流，校外授業，ボランティア等）
 - 高校，大学，社会人と小中一貫校のその先の進路について，小さい時から考えられるような他学年との交流

地域

- ・地域との連携
- ・地域とのつながりも霞ヶ浦をキーワードに水産業の継承（地引網や投網体験？），つり大会，ドラゴンボートの製作&レース，一斉清掃
- ・地域との関わりが濃密に出来るように学校の様子を随時，回覧版等で連絡するのみならず，学校行事に積極的に招待して，学校の様子を保護者以外にも知らせるようにする。例として玉里東小の「ひがしの祭り」のように付近の住民の方にも行事に参加していただく。
- ・学校の先生方，父兄，地域の住民が積極的に子ども達に関われるようにする（時間は掛かるでしょうが…。）
- ・農村地域という地域の特性を生かし，学校の外での学習内容を設ける。
（例えば，本当の田圃を使用しての稲作体験授業等。授業時間に反映するのが難しければ，育成会の行事とする。）
- ・地域の方から理解と協力を得られるような，情報発信がコンスタントにできるシステムの構築。

その他

- ・生徒だけでなく、先生方も名札を付けている（当然と思うが。北小は付けていない？）
- ・市民憲章が体育館等に掲示されている（小美玉は？）
- ・各クラスの廊下への掲示物がきれい、良い内容（国田も同様）
前期，中期，後期ごとの方針有
- ・冒頭の教育長の挨拶が素晴らしいと思いました
- ・各クラスで生徒数が20名前後で大人数でなくてよいと思いました

○ハード面

全体

- ・自然採光の取り込み
- ・床，腰壁までは板張り…国田は壁全面（木の温もりを感じた）
- ・木目調を基本として，明るく落ち着いたイメージで
- ・全体的に木を沢山使用し開放的な空間の作りの先進校を視察してきたこともあり，そういう例を参考にして子ども達が伸び伸びと明るく学習し，生活できる校舎を建設してほしい。既存の施設の利活用は当然考えなければいけないが，やはり“良いもの”，“長く使えるもの”を建設するためには，理想とする形を目指して設計するべきであり，敷地に制約があるのであれば，なおさら最初から再レイアウトを行う必要があると思うので，設計時には仮校舎も念頭に計画してほしい。
- ・児童生徒にとって使いやすく活動しやすく，機能的に
- ・学校（教師）の管理面への配慮を
- ・省エネ，バリアフリー，安全性
- ・キーワードは「交流」だと感じた。→異学年・地域・ノーマライゼーション・バリアフリー 交流できる設計・工夫
- ・行事からのアプローチも重要→運動会は小中一緒にやるのか。合唱コンクール。卒業式，入学式，給食は教室で食べるのか，ランチルーム（ホール）で食べるのかなど
- ・支援学級やバリアフリー等の対策をしっかりと対応してほしい。
- ・なるべく一ヶ所に，そして校庭以外は平坦な地に校舎等は建ててほしい。
- ・既存の校舎を使わざるを得ない時は先々，使い勝手の良い増設方法で行ってほしい。
- ・環境面では，太陽光発電，雨水（中水）利用，屋上緑化
- ・生徒数が増えるので，建物の内外部，全てにわたって，教師，職員の目の届かない死角を作らないよう，気くばりした校舎づくりをしてほしい。

諸室

- ・各階にフリースペースの確保…国田も同様
- ・特別支援用の教室が多数あり
- ・特別支援学級が複数あってよいと思いました。また、個別教室もあり、様々なニーズに対応できそうだと思います。
- ・新校舎の方で、廊下の広さは素晴らしいと思いました。移動少なくちょっとした集会や多目的に利用できる。
- ・各エリア毎に多目的スペース教室があり、カリキュラムに応じて色々に対応できるといいと思います。
- ・現場にいる先生の意見を重視したい。細かい使い勝手（職員室・保健室・音楽室・図書室・図工室などの特別教室）

設備・内装

- ・空調が効いている（ちょっとやりすぎかも）
- ・教室の窓は原則透明ガラス 秘密・プライバシーの部分はすりガラス
- ・各階のベランダが目隠し？用に柵の外側に板張りしている
安全面を考えると柵（鉄格子）の内側に板を張った方がよいと思うが。何か理由があるのでしょうか。鉄格子にぶつくと危険！
- ・ベランダの鉄柵の外に木の板が貼ってあった。これはデザインだそうだが、その他にも①木のぬくもりの効果、②外の様子が生徒から見えないので授業に集中できる効果がある。是非設計に加えてほしい。
- ・＜視察でよいと感じたこと＞
 - 教室の廊下側の壁が8枚戸
 - 腰壁、木目柵に木のぬくもり
 - 階段の壁がガラス張り
 - 階段（一段）が低く、幅広 } などをとり入れたい。
(明るく、広く、あたたかく感じられるように。)
- ・ICT教育への対応→前提として小美玉市の情報教育はどこを目指すのか。
- ・将来的に発展する余裕を持たせてほしい（特に情報通信面は、今後も飛躍的に発展する可能性があるため、電源・通信関係は過剰と思えるほどの余裕を持たせて欲しい。例えば、各教室等の四隅には電源やLAN等の有線のポート・コンセントを設けておく など…。)
- ・理科室の実験机（生徒用）が前向きで良くない。4人で向き合える机で設計してください。
- ・職員室から全校（校舎内及び敷地）が見渡せるように遠隔カメラ等の設備があれば便利。（緊急時のみならず、常時 学校の全体が簡単に把握できる）

外部

- ・芝生、お花がきれい（手入れが大変だけど）
- ・下校前の集会や防災、緊急用に昇降口の前に屋根つき子ども達が全員集合できるスペースが必要。



- ・グラウンドには、土埃を防止するための散水装置を設ける。(散水装置を遠隔で作動させることにより、体育の授業の際、担当の先生が躊躇することなく授業中に土埃を収めることが出来る。また、緊急時のドクターヘリ・防災ヘリの緊急時の着陸にも早急に対応ができる。)

通学

- ・1～6年生はスクールバス、中学生は自転車通学
- ・多数の生徒がスクールバスを用いて通学するようになると思われるので、校門近辺にスクールバスが一時的に停車すると思われるので、付近の交通障害にならないようにスクールバスや保護者の送迎車両の駐車スペース必要であるが、道路を横断せずに済むようにしてほしい。



- ・通学方法については保護者も先生も若干子ども達にはきびしいと思われるくらいの方法をとってほしい。と言って安全をないがしろにつもりはありません。安全は第一にしかも子どもへのきびしさも忘れないで！！

地域

- ・地域防災拠点としての機能
- ・コミュニティ拠点としての機能→地域開放→セキュリティとの兼ね合い
- ・地域シンボルとしての特徴

その他

- ・廊下から直接、体育館に行けるのは便利では…。



- ・防災用の設備も設けておいてほしい(井戸、トイレ、太陽光パネル、防災用品を収納しておく倉庫など)
- ・杭の高さに何種類かあるのにおどろいた。

○建設準備委員会を進めていくにあたって、不安に感じている点、疑問点など

- ・ 前回もコメントしたが、毎年メンバーの入れ替えがあるのが心配
 - 昨年、今年为学校視察がどう引き継がれるのか、活かされるのか
 - コンセプトを作って、これを反映するときに、「なぜこんなコンセプトを作ったの？」が必ず出る。
一から経過説明と論議で2時間の会議が終わる
でも、もし出ないようだと、その人は真剣になっていない…そんな人は必要ない
 - 今回新メンバーの人も何も引き継いでいない話しぶり（それが一般的）
- ・ 早く活動計画の詳細をつくるべき
 - これで全体が見えると少しは安心できる
 - 今回のプロジェクトは時間があるようで無い！
 - 2ヶ月に1回の会合（しかも2時間足らず）でコンセプトを1年で纏めるって至難の業です。コンサルの人の腕にもよるが（コンサルの言いなりになるかも）
 - とは言っても今の2、3倍の時間を取られても参画できませんが。
※次回委員会での活動計画に期待！
- ・ 下総みどり学園のような広く大きく多目的に対応できるハード面にできる予算は確保できるのか。20億円規模でどの程度の校舎を見込んでいくのか。
- ・ 構成メンバーが、2～3年で入れ替わっていくため、引継が難しいのではないのか。
- ・ 現在のように、委員長に校長先生が充てられることに対しては、やりづらさがあるのではないのか。できれば、第三者の立場で継続してお願いできる方がいればよい。
- ・ 地域、保護者、市教委、学校が、対等の立場で話し合われることが望ましいが、実際には市教委と学校は密接な関係にあり、会議での発言も慎重になりがちである。
- ・ みどり学園のように、他県や他市町村の先進校事例モデルをリサーチし、2～3例の原案を提示していただくとありがたい。
- ・ 学校としては、小小連携・小中連携で新しい教育課程や教育活動内容について検討するのが精一杯の現状である。
- ・ 熱心で真剣な建設準備委員さんが多いので、会議のたびに白熱した議論が交わされているが、これは本当に良い学校を作ろうという熱意の表れであると思うので、それを真摯に受け止めて事業を進めていってほしい。私も建設関係の部署の担当を務めたことがあるので思うのですが、事業を進めていく上で一番大切なのは「計画」であると思うので、しっかりとコンセプトやランドデザインについて、委員と事務局で合意形成をし、納得出来てから次のステップに進むべきであると思う。そうしなければ、手戻りが生じたりして、次の段階で混乱をきたすことになってしまうと思う。また、一番先に行うべきはカリキュラムや教育方針の検討であり、それらのソフト面を実現するためのハードであると思うので、きちんとソフトとハードがシンクロ出来る小中一貫校にするためには、全体スケジュールを延ばして、完成年度を遅らせても、その部分に時間を掛けるべきだと思います。それから、通学エリアが広がり、スクールバスや送迎の父母の車が多く、朝夕に学校へ来ることになるので、駐車スペースや、子どもの安全に配慮した動線を確認し、学校内やその周辺で交通事故等が起こらないようなデザインにしてほしい。
- ・ 前回の会議で「建設準備委員の私は何をすればいいのか？」という質問がありました。今までの会議を見ていると、事務局提案内容のチェックをしているだけで、なかなか前に進まないようです。せっかく集まっているし、建設準備の推進役なので、グループ協議（内容、方法の検討）を行い、最後に全体共有やチェックをすればどうでしょうか。
（例）保護者代表12名は、PTA部会として、各学校、園の組織が運営、会費等の情報交換をしたり、安全対策

や通学方法について話し合ったりする。(そのためには、委員が判断、提言できる資料が必要となりますが…)

- ・ 今後は市、地域、PTA関係の方ばかりではなく、実際に子どもを通学させる保護者との意見交換会もした方が良くと思う。準備委員とは違う意見が出るかも？